

☆えほん☆

「ペンギンのパンゴー」

市川里美／作 BL出版 E3イチ

ぼくはぬいぐるみ、ペンギンのパンゴー。ダニーとはだいのなかよしで、いつもいっしょ。けれどあるひ、ダニーはあたらしくもらったぬいぐるみにむちゅうになった。もうぼくをすきじゃないみたいだ。そこでパンゴーは、ペンギンのなかまをさがしに、すいぞくかんにいくことにした。

☆よみもの☆

「世界一のランナー」

エリザベス・レアード／作 石谷尚子／訳 評論社 932レア

ソロモンはエチオピアの小さな村に住む少年。夢はランナーだ。あるとき、おじいちゃんのおともで、アディスアベバに行くことになった。初めて見る大都会やオリンピック選手の優勝パレードにこうぶんするソロモン。ところが、おじいちゃんがたおれて病院にはこばれてしまった。

☆しらべもののほん☆

「アリの巣のお客さん」

丸山宗利／文 小松貴・島田拓／写真 あかね書房 486

アリの巣にはアリだけがくらしていると思っていないだろうか。自分たちの巣をまもるため、巣がちがえば同じ種類のアリでもてきたとみなす。そんなアリの巣に、まったくちがう虫が、しかもたくさん住んでいる。どうやって入りこみ、えさを食べるのか？

あたらしい本のコーナー

「文房具のやすみじかん」

土橋正／文 小池壮太／絵 福音館書店 E3コイ

まもるくんが外へ遊びに行ったあと、部屋でひそひそ声がした。おしゃべりしているのは消しゴムやえんぴつたち！えんぴつが紙に「かける」しくみや、消しゴムがえんぴつは「消せる」けど色えんぴつやボールペンは「消せない」のはどうしてか、文房具たちがおしえてくれるよ。

「ガストン」

ケリー・ディブッチオ／文 クリスチャン・ロビンソン／絵 木坂涼／訳 講談社 E4ロヒ

ブードルかあさんの4ひきのこどもたち。体が小さくて上品な声でなくきょうだいたちの中で、ガストンだけはみんなより体が大きく、なき声もちがって・・・。

「おしりポケット」

・ウォンバットのあかちゃん・ ゆうきえつこ／文 福田幸広／写真 そうえん社 E2オシ

世界中でオーストラリアだけにすむウォンバットは、子どもを育てるポケットがおしりの向きについている。ポケットの中に入れて、いつでもどこでもお母さんといっしょ。らくちんだし、何もこわくないんだ。

「さかさ町」

F. エマーソン・アンドリュース／作 ルイス・スロボドキン／絵 小宮由／訳 岩波書店 932アン

おじいちゃんの家への旅の途中、「さかさ町」で一日すごすことになったリッキーとアン。さかさ町では、名前のとおり、なにもかまがさかさま。家はさかさまに建っているし、車はうしろむきに走っている。

「しゅるしゅるぱん」

おおぎやなぎちか／作 古山拓／画 福音館書店 931オオ

父の生まれ育った、岩手県朱留町に引っ越してきた6年生の解人。初めて新しい学校に行った日、不思議な男の子に出会った。自分のことを「しゅるしゅるぱん」という。解人以外の人には見えないらしい。

「おいしい電車」

・おしごとのおはなし電車の運転士・ 最上一平／作 クボ桂汰／絵 講談社 931モカ

学校で誰ともしゃべらない、遊ばない一路は、双子のまつりからも、みんなからも変人って言われている。部屋のおしりの上の段は、一路だけのひみつ基地。電車の写真や模型、時刻表を持ち込んで、ひとりきりで電車のことを好きなだけ考えるんだ。

「がんばれ！ 盲目の犬レディ」

・オリンピックメダリスト・ 山本博のわんわん物語・ 山本博／文 岩崎書店 64

アーチェリーのオリンピック・メダリスト、山本選手がはじめて飼った犬は「トランプ」。その次に、「レディ」という犬がやってきた。レディは生まれたときから目が見えない。山本一家とトランプのサポートで力強く生きていく。

「勇気の花がひらくとき」

・やなせたかしとアンパンマンの物語・ 梯久美子／文 フレーベル館 Bヤナ

やなせたかしは、戦争で弟を失い、自分も兵士としてつらい思いをした経験から、おなかをすかせた子どもに食べ物をお届けすることこそ本当の勇気だと考えた。困っている人にじぶんの顔を食べさせるやさしいヒーロー・アンパンマンは、しだいに子どもたちの人気者になっていった。

「野菜からそだてるカレー」

真木文絵／文 石倉ヒロユキ／写真・絵 偕成社 59

カレーは、何からつくられているのかな？ たまねぎ、にんじん、じゃがいも、それから、カレールー。それぞれのそだてかた、つくりかたを説明するよ。さいごには、おいしいカレーライスをつくりかたも。